

校長式辞

潮騒の音とともに春の暖かさが、ここ女川の地に戻ってまいりました。今日の佳き日に、女川町長 須田善明 様ご名代、女川町副町長、伊丹相治 様のご臨席を賜り、保護者の皆様とともに、令和六年度宮城県立支援学校女川高等学園の入学式を挙行できますこと、心より感謝申し上げます。ただいま入学を許可いたしました十九名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また保護者の皆様におかれましては、これまでの義務教育を終え、新入生の皆さんが新たな学校生活に臨むスタートラインに立たれたこと、心からお祝い申し上げます。

さて新入生の皆さん、本日からいよいよこの女川高等学園の生徒として新しい生活が始まります。そこで、これからの学習や生活の中で、皆さんにぜひ頑張ってもらいたいことを二つ、お話ししておきたいと思います。

まず学習について、本校は産業技術科の高等学園です。したがって、これまで同様国語や数学など、各教科の授業もありますが、中心になるのは、専門教科の実習になります。本校には、サービス、食品製造、福祉の各専門コースがあり、新入生は一年間をかけて、自分が進むべきコースを検討します。ですのでまずは、自分がどのコースに進んで専門の実習をするようになるのか、それをしっかり知る上でも、各コースの実習に真剣に取り組んでほしいと思います。

さらに実習は学校外でもあります。一般就労を目指して、本校では、一年生の後期から、地域の事業所のご協力を得て、実際に各事業所で、一人一人が目標を立てて実習を行います。ここでは早くも、実習先に失礼のないよう、挨拶や礼儀など、社会人としてのマナーを求められることとなります。皆さんはもはや中学生ではないことをしっかり自覚してください。

次に生活について、本校は三年間全寮制です。ただし、寮生活が始まればすぐに分かると思いますが、朝起きるとき、特に寄宿舎の先生方が皆さんを起こすようなことはありません。また消灯時間は決められていますが、学校から寄宿舎に戻って消灯までの間、その時間をどのように過ごすかは、自分たちで決めることとなります。つまり、健康や体調を含めて、自分のことは自分で管理する、自己管理が強く求められることとなります。もし仮に、しっかり自己管理できず、体調不良や病気となれば、寄宿舎では対応できなくなるので、保護者に迎えに来ていただくこととなります。保護者の皆様にもご負担をおかけしますが、どうぞご理解ください。大切なのは、それだけ大きな迷惑を家族かけるということになるので、皆さんは健康管理、自己管理を自分でしっかり行わなければならないということです。ここでもやはり皆さんは中学生ではないことをしっかり自覚してほしいと思います。

ここまで聞くと、高等学園の学習や生活はとても厳しいものであるかのように感じられるかもしれません。けれど明日以降、対面式を経て、先輩たちの様子を自分自身の目で確かめてみてください。先輩たちは、互いに助け合い、協力し合って、今、皆さんにお話ししたようなことをしっかり行っています。なぜか。本校に集い学ぶ生徒たちは、みんな、自分一人だけでできることには限界があるということをととてもよく知っているからです。自分だけではどんなに頑張ったって、できないことがあります。しかし協力してみんなであれば、やり遂げられることもあります。そしてみんなでやり遂げたときの、その達成感は本当に素晴らしいものがあります。それを先輩たちはみんな本当によく知っているからです。

皆さんは、進路先として本校を選び、受検を経て、今日ここに集いました。これまでの小中学校時代とは違い、みんな同じ仲間が、みんな同じスタートラインからのスタートです。まずは皆さん自身が仲良くなってお互いに助け合い、そして先輩たちと協力し合って、三年後の一般就労を目指し、素晴らしい学園生活を送れるよう、頑張っていきましょう。期待しています。

令和六年四月九日

宮城県立支援学校女川高等学園 校長 浅水 啓一郎

祝辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

そして保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。

皆さんの入学を、先生方はもとより、私たち女川の町民もみんなでお待ちしておりました。

皆さんは、今日から、それぞれの家を離れて、初めての寄宿舎での生活の中で、新しく始まる学校生活に、少しの不安と緊張もしていると思います。

でも大丈夫です。この女川高等学園にいる先輩や先生方は、皆さんを温かく迎えてくれることと思いますし、女川の町民も皆さんを町の宝、町の大切な一員としてお迎えしますので、どうぞご安心して学園での生活を送ってください。

女川高等学園は、開校以来、校長先生をはじめとする先生方のしっかりとした教育、生活指導、進路を指導の下で、皆さんの持つ能力や可能性を伸ばし、社会的にも、そして職業的にも自立した人づくりにご尽力いただいております。ここを卒業された先輩方は、地元女川町はもとより、県内各地、各分野でご活躍されております。

また、学園では、障害者技能競技大会や、水産加工品品評会、みやぎ産業教育フェア、そしてぼうさい甲子園など、さまざまな活動にも積極的に参加され、目を見張るような数々の賞を受賞されるなど、まさに女川町を代表する活躍ぶりで、生徒さんと学園には、私たちも大いに敬意を表している次第でございます。

今日から始まる新しい学園での生活は、皆さんにとって新たな挑戦であり、皆さん自身の能力をさらに磨き、成長させてくれる場になることと信じております。

女川高等学園での学びの中で、皆さんの夢や目標が実現されることを願い、そして3年間の学園生活の中で、友達との友情も深め、自信を持って、楽しい学園生活を送ってください。皆さんの可能性は無限大です。

そして、保護者の皆様、お子様一人一人が抱く、夢や希望の実現に向けて、町といたしましても女川高等学園の先生方とともに、精一杯努めてまいります。

結びに、女川高等学園の益々のご発展と、本日ご出席の皆様のご健勝と御多幸をお祈りし、はなはだ粗辞ではございますが、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和6年4月9日

女川町長 須田善明